

高野大納言どのへ 柳原前大納言どのへ

如斯被認御事也、立文にて卷文尤□□□□也、奥向の名は不被書也、尤上使自分献上之太刀馬代有禁中より拜領物は、八景十體之和歌、公卿寄合書の色紙短冊、或は勅方之薰物香袋等、時に隨ひ品々也。

〔嘉永年中行事〕二月 大樹年頭使 并 年中獻物 日限定らず、關東使參れば、先鶴の間にて、武家

傳奏へ大樹よりの祝詞を申す、傳奏承りて、常御殿にて言上す、夫より御引直衣めして、小御所へ出御なる、大樹より進上の御太刀折紙と、三家よりの太刀折紙とを傳奏披露す、關東使中段に進み御禮申す、退き庇にて自分の御禮頭辨申次ぐ、太刀折紙を中段に置き、庇にて御禮申す、次に天盃を給ふ、御陪膳御手長例の如し、關東使天盃給はり退出す、次に入御なる、慶長十三年二月に、將軍の名代年頭の御禮として參る、夫より年々の事になれり、關東使御暇の日は、長橋の奏者所へ參る、公卿の間にて、傳奏より大樹への御返答の由を仰す、次に御暇給ふべきよし傳奏申し、品々を給ふ、關東使御禮を申す、三獻を給はり退出す。

〔御湯殿の上の日記〕慶長六年正月十八日、内府○徳川家康より年頭の御禮として、名代に池田三左衛

門參り、御太刀折紙、馬代白銀五十枚參る、親王の御方へ、御太刀折紙、馬代三十枚進上申さる、池田三左衛門、御兩所へ御太刀折紙進上申、十三年二月廿八日、江戸の將軍より、年頭の御禮として、大澤侍從御使に參り、蠟燭千挺、白銀百枚進上あり、宮の御方へも、女御の御方へも、長橋殿へも、白銀廿枚參る、大澤侍從御太刀折紙にて御禮申、右少辨酌にて天盃いたゞく、十四年正月十六日、前○徳川家康よりねんとくに、大さはのぼる、せいりやうでんにて御たいめん、玄やうぐんより御たち折かみ、御むま一疋、玄ろかね百まい、らうそく千ちやうまゐる、宮の御かたへも御たちをりかみ、玄ろかね五十まいまゐる、ひやうゑのすけ、ひたちのすけも、御禮に御たちをりか